

朝夕は肌寒くなり、体調を崩してしまいやすい時期になりました。会員の皆さんは体調管理怠りなく、日々の診療に励んでいらっしゃる事と思います。医療を取り巻く環境も激変し、財政主導の様々な改革が行われようとしています。社会福祉予算の削減は、いつも弱い立場の者たちに負担が大きく、弱い者いじめの改革が社会全体の不安を拡大していきます。これだけの事をしておきながら、政府や官僚は実際に社会的弱者の不利益は生じていない等とうそぶく厚顔さは全くあきれの限りです。

第117回日本医師会臨時代議員会では後期高齢者医療制度における主治医制度について、療養病床の再編について、有床診療所について、沖縄の日本脳炎ワクチンの確保に関して議論をしてきました。現場において病める者に接するのは臨床現場の医師です。医師会はこの立場をしっかりと社会にわかっていただき、声を上げて患者さんのための提言をしていきたいと思いません。平成19年度全国医師会勤務医部会連絡協議会では、いまや過酷を極める勤務医の実態を踏まえて、勤務医の勤務状態の改善や、女性医師就労に関しての支援体制の充実を訴える沖縄宣言を採択し、国に働きかけを行う事になりました。平成19年度第1回沖縄県医療保健連合（なごみ会）幹事会では、健康福祉の向上のため様々な関係機関が連携して取り組んでいく為に様々な活動がなされようとしています。真栄田篤彦常任理事には、南風原町新川に建設される新沖縄県医師会館の建設工事安全祈願祭についてご報告頂きました。新会館建設には会員の皆様のご協力が必要です。なにとぞご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。今回は緊急提言として琉球大学医学部附属病院第一内科の健山正男准教授より急増する沖縄県のHIV/AIDS患者の現状と今後の課題に関してご寄稿いただきました。多くの医師がHIV/AIDS患者に遭遇する可能性があるようです。しっかりと勉強して対応していきたいものです。琉球大学医学部附属病院耳鼻科の鈴木幹男先生からは、耳鼻科領域の内視鏡下手術について詳細に解説していただきました。低侵襲性と整容性に優れた内視鏡手術の進歩が非常によくわかりました。県立南部医療センター・こども医療セン

ターの伊良波史朗先生には、転移性骨腫瘍と放射線治療について詳説していただきました。骨転移による癌性疼痛に対して非常に有効な姑息的照射（緩和治療）は放射線治療のタイミングが重要のようです。頭蓋骨縫合早期癒合症の診断については南部医療センター・こども医療センターの下地武義先生よりご寄稿いただきました。乳児期健診の際にしっかりみておきたいと思わせました。健康に関して喜久村徳進先生から、特に霊的（スピリチャル）という部分に関してご投稿いただきました。霊的健康は足ることを知る事で近づけるのかもしれませんが。医師不足と新臨床研修医制度の問題点に関してはハートライフ病院の佐久川廣先生よりご投稿いただきました。特に2年目のスキルアップを如何に凶っていくべきか、後期研修を含めて大きな課題でもあります。沖縄で優秀な医師が育ち、長く活躍出来るためには、沖縄全体を一つとしたグローバルな研修協力体制が構築される必要があるのではないかと思います。リレー随筆では勝連英雄先生に、医師に至り、そして今に至る道のりを語っていただきました。随筆では豊見城中央病院の桑江紀子先生に、とても繊細な文章を書いていただきました。また吉川朝昭先生には愛情あふれる親と子のふれあいを熱く語っていただきました。総合保健協会附属診療所の大城盛夫先生の「安里川の岸辺」は心に染みます。天が時を与え、地が利を与え、人は和をもって何事か成すのでしょうか。若手コーナーでは与那原中央病院の安里英樹先生に書いていただきました。安里先生は同期生でもあり、安里先生がいかに野球にうち込んでいたかもよく知っています。人との出会いの中で、整形外科医師として大きく成長し、尚も感謝という言葉テーマにするあたりは安里先生らしいですね。その昔学生の頃、コンパの帰り、安里先生と二人で一緒に酔っぱらって国際通りを歩いているとき、恰幅の良い安里先生とマリンらしき外人の方がケンカしそうになりましたね。小柄な私はきっと殴られるのは私だと直感し、アイムソーリー、ベリーソーリーと土下座して謝った思い出を思い出しました。ああ、恐かった。

広報委員 玉井 修